

平成 20 年 6 月 2 日
大阪ウォーターフロント開発(株)広報課
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>
(担当：松原、齋部、西村、田井、鈴木)

世界中の水族館で海遊館が唯一 世界初！謎の大型エイ「イトマキエイ」の展示スタート！

ジンベエザメ・マンタとの同時展示も海遊館だけ！

大阪市港区の海遊館では、平成 20 年 6 月 1 日(日)から「太平洋」水槽にて、世界中の水族館で唯一となる大型のエイ「イトマキエイ」(体盤幅 2.2m、メス)の展示を開始しました。「イトマキエイ」は成長すると体盤幅が 2m50cm 以上になる大型のエイで、日本近海にも生息していますが、自然界でもごく稀にしか姿が見られない極めて珍しいエイです。過去に世界中の水族館で餌付けに成功し、飼育展示に至った例はありません。海遊館への輸送は 5 月 31 日(土)午後 7 時 50 分から行っておりましたが、6 月 1 日(日)午前 5 時 56 分に無事「太平洋」水槽への搬入に成功し、「ジンベエザメ」や「マンタ」などと共に、「太平洋」水槽で来館者に元気な姿を見せてくれています。

「イトマキエイ」の水族館での展示は、海外では例がなく¹、また、国内の水族館においても餌付けに至らない飼育例が数例あるのみで²、今回のように餌付けに成功し、さらに展示に至った例は過去に遡っても世界中になく、海遊館が世界初³となります。

「イトマキエイ」の展示により、海遊館では世界最大の魚「ジンベエザメ」、エイの仲間の最大種「オニイトマキエイ」、そして今回の「イトマキエイ」と、サメ・エイの仲間でも特に大型の 3 種を同じ水槽で展示したことになります。この 3 種を同時に同じ水槽で展示することは極めて困難であり、海遊館が世界で唯一の展示施設となります。



世界初展示となる「イトマキエイ」

- 1 米国板鰐類学会調査報告(2006)より。
- 2 日本動物園水族館協会年報別冊「飼育動物一覧表」(1997~2005)より。
- 3 本リリース内で世界初と表現しているのは、世界で初めて「イトマキエイ」の餌付けに成功し、継続的に飼育している個体を展示するという意味。

「イトマキエイ」は、南日本から東シナ海、南シナ海、ハワイにかけての沿岸や沖合いの表層域に生息する大型のエイです。

成長すると体盤幅(横幅)が2m50cm以上になり、過去には体盤幅が3m10cmという記録があります。“マンタ”の別名で親しまれている「オニイトマキエイ」(「太平洋」水槽にて展示中)や、小型種である「ヒメイトマキエイ」の間で、外見も大変良く似ていますが、口や噴水孔の位置、背ビレの後ろのトゲの有無などで見分けることができます。



「ジンベエザメ」と「イトマキエイ」

また、水族館やダイビング等の際に比較的容易に見ることができる「オニイトマキエイ」などに比べ、「イトマキエイ」は水族館での飼育例やダイビングなどでの目撃例が極めて少なく、ほとんど知られていない謎に満ちた大型のエイです。

今回展示を開始した「イトマキエイ」は、平成20年1月23日(水)に、高知県土佐清水市以布利地区の沖合約2kmに設置された定置網にかかったもので、同日中に同地にある「大阪海遊館 海洋生物研究所以布利センター」に搬入しました。



「イトマキエイ」の詳しい生態はほとんどわかっておらず、また水族館で餌付けに成功した例がないため、餌の種類や餌の与え方など、具体的な飼育方法については全く手探りの状態でしたが、これまでの「ジンベエザメ」をはじめとする大型魚類の飼育経験や研究などの成果により、餌付けに成功

しました。餌であるオキアミやイサザアミなどの小型の甲殻類を、一日あたり約1.7kg食べて順調に生育していたことから、海遊館までの長時間の輸送と、「太平洋」水槽での飼育展示が可能と判断し、今回搬入したものです。輸送は5月31日(土)午後7時50分に現地を出発し、陸路を約8時間かけて6月1日(日)午前4時40分に海遊館へ到着、同5時56分に「太平洋」水槽に無事搬入しました。



【イトマキエイ】英名：Spinetail mobula 学名：*Mobula japonica*

トビエイ科。南日本から東シナ海、南シナ海、ハワイにかけて分布する大型のエイで、頭部の両端にある頭ビレが特徴。「オニイトマキエイ」に似るが、「オニイトマキエイ」では口が頭部前縁に位置するのに対し、「イトマキエイ」では頭部腹面に位置すること、また背ビレの後ろにトゲがあることで見分けることができる。日本国内で見られることは稀。成長すると体盤幅が2m50cm以上になり、過去には体盤幅が3m10cmという記録がある。

【日本近海に生息するイトマキエイの主な仲間】

「オニイトマキエイ」

エイの仲間の最大種で、成長すると体盤幅5m以上になり、過去には体盤幅6.8mという記録がある。“マンタ”の別名で知られており、海遊館では平成11年12月14日より「太平洋」水槽にて展示している。



「太平洋」水槽のオニイトマキエイ

「ヒメイトマキエイ」

成長すると体盤幅2mと、「イトマキエイ」の仲間では小型種。「イトマキエイ」と混同されることが多く、過去に国内の他園館で「イトマキエイ」として展示されたものの多くが、詳しい調査の結果「ヒメイトマキエイ」であったことがわかっている。